

牛久
むかしばなし
《其の二》

河童松

問 広報広聴課
☎内線3221、3222

その昔、牛久の町に陸前浜街道がとおり、

宿場には旅館や茶店が並び、人々の往来でにぎわっていたころのお話です。

当時の牛久沼は水を満々とたたえそれはそれはきれいな風景でした。

この沼には、昔から河童が住んでいました。

河童たちは、畑のキュウリを食べたり、魚採りの網を切ってしまうなど悪さをしました。

また、村人たちが沼で水浴びをしていると、尻子玉を取られ、おぼれ死ぬ者もあったといひます。

そしてその悪さは、日増しにふえる一方でした。

そこで困った村人たちは、寄り合いをし

河童を退治することになりました。

触れを廻し村一番の泳ぎの達者で屈強な者に頼むことにしました。そして何人もの中から百姓の「彦衛門さん」が選ばれました。

彦衛門さんは、来る日も来る日も沼を泳ぎまわり、ついに数日後、沼の深みに爪の長い甲羅の黒い大きな河童を見つけました。

「とうとう見つけたぞ」

「ブレケケケケス」

「かんねんしろ」

「キーキー」

大変な格闘の末、河童を陸に引きあげることが出来ました。



河童は、村中を引き廻され

ついに沼辺の大きな松の木に、うしろ手にしばられ、三日三晩さらしものにされました。

暑い夏の日であったので、河童の血の水は、みるみる干し上がっていきます。

日増しに元気のなくなった河童はついに

四日目の朝村人に泣きながら詫言るのでした。

「これからは、いっさい悪さはしません。どうぞかんべんしてください」

「今までの罪ぼろぼしにお百姓さんのお役に立ちたいと思います」

かわいそうになった村人たちは、河童を牛久沼にはなしてやることにしました。

以来、畑も荒らされることもなく、また、沼で水浴びをしても

おぼれる人もなくなりました。そればかりか沼のまわりの浮田では、葦がかられ、水草がすみあげられて

いるのです。お百姓さんたちは、大変よろこび口々に言うのでした。

「あの河童が約束を守ってくれたんだ」

「この様にやさしい心にかえった河童に村人たちは、お礼として

旧暦十二月一日には、餅をつき小さくまるめて牛久沼や川になげこみ、

水の安全を祈るようになりました。あのとぎの松は、村人から河童松とよばれ、親しまれるようになりました。



「牛久のむかしばなし1 河童松」より(「牛久の昔話」編集委員会・編集、武川秀男・絵 牛久市立図書館発行 1990年)



どこにいる河童かな?

広報うしく6月1日号「市内の河童の場所」答え

- ①市役所前バス停 ②牛久駅東歩道橋 ③観光アヤメ園入口付近の看板 ④三日月橋 ⑤近隣公園ステージ ⑥市役所本庁舎ロビーの壁面 ⑦⑧観光アヤメ園内



「市内の河童」詳しくは市HPへ▼



昭和61年6月に市制施行記念として作られた消印と下敷き。下敷きは当時の市内小学生に配布されました▶



河童松のいま

初代の河童松(昭和25年ごろ)



河童をしばり付けた「河童松」は、小川芋銭ゆかりの雲魚亭(城中町)の近くにありました。芋銭は、この伝説を画集「河童百図」の中で描いてい

ます。芋銭が描いた、初代の河童松は昭和30年ごろに枯れてしまいました。昭和63年、芋銭生誕120年を記念して雲魚亭の沼寄りの位置に、新たに河童松が植えられました。松の下には、「牛久沼河童松」という文字を刻み込んだ記念碑が設置されています。



小川芋銭『河童百図』より